

現在、Professional Engineer(PE)に対して、継続教育(CPD : Continuing Professional Development)を要求している州は多くあり、要求されていない州でも今後は要求される方向にあります。例えば、Oregon州は、2年間で30PDH(Professional Development Hours)が必要となっています。以下の表に、NCEES Model RulesおよびOregon Administration RulesによるCPD付与の基準の抜粋(JSPE会員が関係しそうな部分)とJSPEの関与(JSPEによるCPD証明証の発行)について示します。

	NCEES Model Rules	Oregon Administration Rules	JSPE
1	大学でのコース履修 継続教育コース履修	他の団体でのコース履修 1 Semester hour=45PDH 1 Quarter hour=30PDH	JSPE 関与しない 各自で申請
2	各種通信教育類 セミナー、組織内教育、講習 会等への参加および発表	通信教育等の受講 セミナー等の参加 セミナー等での講義	JSPE 主催セミナーは 1h=1PDH の CPD 証を発行
3	公刊論文、書籍、資格試験問 題の執筆	技術的な本、論文、記事の著 者、共著 max10PDH/2年	JSPE マガジンへの投稿は、PDH 記載ないCertificate 発行 時間は各自で申請
4	専門職協会、技術協会での積 極的活動	専門技術分野委員会や団体へ の積極参加 max8PDH/2年	JSPE 活動への参加は、PDH 記 載ないCertificate 発行 時間は各自で申請
5	特許の取得(登録)		JSPE は関与しない 各自で申請
6	自主学习	能力向上に役立つ自主学习 max6PDH/2年	JSPE は関与しない 各自で申請
7	非技術的教育活動など	技術以外の学習活動	JSPE は関与しない 各自で申請
8		自分の配下技術者への指導 10h=1PDH max4PDH/2年	JSPE は関与しない 各自で申請

2のJSPE主催セミナーはPDHが記載されたCPD証、3のJSPEマガジンへの投稿、4のJSPE活動への参加はPDHの記載のないCertificateを発行しますが、そのJSPEが発行したCPD証あるいはCertificateを承認

するかどうかは、米国各州の判断に委ねられています。ただ、実績として、JSPEが発行したCPD証は承認されています。PE資格更新時は、2年間で獲得したPDH数を記載するだけですが、**運良くAuditにかかった場合は、それを証明する資料を提供する必要がありますので、PE会員の方は、以下の準備を日ごろから行っておくことをお勧めします。**

(1)JSPE主催のCPDセミナーへの参加

①集計表を作る

何年何月何日に何CPD獲得したかをエクセル等で表にして集計する

②CPD証をファイルしておく

セミナー参加の証であるJSPEが発行するCPD証を透明ファイル等に集めておく
この時、CPD証の上部に自分の名前を記載しておく

③セミナー資料をファイリングしておく

実績的には、上記CPD証の提出で承認されますが、州によっては追加資料を要求される恐れがあります。
そのためセミナー資料も整理してファイリングしておく

(2)JSPEマガジンへの投稿

①集計表を作る

投稿日、掲載日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する
(Oregon州は2年で10PDHまでの制限があります)

②Certificateをファイルしておく

③投稿された文書のコピーをファイリングしておく

(3)技術系雑誌への投稿

①集計表を作る

投稿日、掲載日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する
(Oregon州は2年で10PDHまでの制限があります)

②投稿された文書のコピーをファイリングしておく

日本語の場合はSummaryを英語で作成しておく

(4)JSPE活動への参加

①集計表を作る

活動日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する
(Oregon州は2年で8PDHまでの制限があります)

②Certificateをファイルしておく

活動内容を英語でメモしておくことが好ましい

(5)能力向上に役立つ自主学習

①集計表を作る

活動期間、要した時間などをエクセル等で表にして集計する

(Oregon州は2年で6PDHまでの制限があります)

②自主学習の内容をレポートしておく

少なくともSummaryは英語でまとめておく

以上のような準備をしておけば、いつAuditに当選しても大丈夫です。以下に、筆者の2010年7月からの集計表を参考として示します。教育部会で活動していますので、JSPEセミナーが多くなっていますが、遠隔地でセミナーに参加できない場合は、自主的な活動で、

技術雑誌への投稿 : 10PDH/2年

学会等への積極参加 : 8PDH/2年

自主学習 : 6PDH/2年

24PDHは獲得できますので、残り6PDH分だけをセミナーで確保すれば良いことになります。まず、集計表を作成して2年間の計画を立案することをお勧めします。

日付	JSPE講座	JSPE講師	雑誌投稿	その他	備考	累計
2010.7.24	2.5				JSPE169thCPDセミナー	2.5
2010.9.4	2.5				JSPE170thCPDセミナー	5.0
2010.9.4		4.0			JSPE168thCPDセミナー	9.0
2010.10.9	3.0				JSPE173rdCPDセミナー	12.0
2010.11.6	2.5				JSPE174thCPDセミナー	14.5
2010.11.6	4.0				JSPE171stCPDセミナー	18.5
2010.12.4	1.5	1.5			JSPE177thCPDセミナー	21.5
2011.1.22	4.0				JSPE175thCPDセミナー	25.5
2011.3.26	2.0				JSPE技術見学会	27.5
2011.4.2		4.0			JSPE179thCPDセミナー	31.5
2011.5.14	4.0				JSPE180thCPDセミナー	35.5
2011.5.14	2.0				JSPE181thCPDセミナー	37.5
2011.6.4	1.5				11th総会セミナー	39.0
2011.6.11	4.0				JSPE182ndCPDセミナー	43.0
2011.7.2	4.0				JSPE183rdCPDセミナー	47.0
2011.9.3		4.0			JSPE184thCPDセミナー	51.0
2011.9.3	1.5				JSPE185thCPDセミナー	52.5
2011.9.17		0.0			168thと同内容	52.5
2011.10.1	2.5				JSPE187thCPDセミナー	55.0
2011.10.1		4.0			JSPE188thCPDセミナー	59.0
2011.11.5		4.0			JSPE189thCPDセミナー	63.0
2011.11.19		0.0			171stと同内容	63.0
2011.12.10		4.0			JSPE194thCPDセミナー	67.0
2012.1.14	4.0				JSPE197thCPDセミナー	71.0
2012.1.21		0.0			175thと同内容	71.0
2012.2.4	4.0				JSPE199thCPDセミナー	75.0
2012.3.31				8.0	2011年度 理事会 10回出席(25h)	83.0
						83.0
						83.0
合計	49.5	25.5	0.0	8.0		83.0